

厚生労働省事業
障害福祉サービス施設・事業所職員のための
感染症対策オンライン研修

コロナ対策で役立つICT
リモート導入の手ほどき

株式会社ビーブリッド 代表取締役
竹下 康平

本日の研修内容

【テーマ】

コロナ対策で役立つICT、リモート導入の手ほどき

1. (株)ビープリッドのご紹介
2. ICT活用をする事で可能なコロナ対策とは
 - 訪問系サービスの場合
 - 入所系・通所系サービスの場合
3. 対策実行時のポイント
ICTツールの選び方、注意点

講師紹介 と 株式会社ビークリッドのご紹介

竹下 康平 (タケシタ コウヘイ)

青森県生まれ45歳 介護×ITで十数年

- 株式会社ビーブリッド 代表取締役
- 日本福祉教育専門学校 非常勤講師
- 北九州市立大学 非常勤講師
- 東京福祉専門学校 非常勤講師
- 一般社団法人日本ケアテック協会 専務理事
- 一般社団法人介護離職防止対策促進機構 理事
- 株式会社ウェルモ 顧問
- 株式会社ティービーアイ 顧問



趣味：介護×IT啓発活動

年間あたり100事業所訪問

(株)ビーブリッドとは

「介護とITを同時に考える会社」をコンセプトとした企業

[ホーム](#)[会社案内](#)[事業内容](#)[メディア・講演](#)[採用情報](#)[お問い合わせ](#)

おかげさまで10周年



2010年にスタートしたビーブリッドは、
2020年7月16日に10周年を迎えることができました。

会社概要

- 会社名：株式会社ビーブリッド
- URL：https://bibrid.co.jp
- 代表者：竹下康平
- 設立：2010年7月16日
- 所在地：東京都台東区上野3-17-9 タイムビルⅡ 6階
- 主な事業内容：
 - 介護・福祉業界特化ITサポートサービス「ほむさぼ」運営事業
 - メーカー向けコンサルティング事業
 - 教育・研修事業
 - 介護・福祉事業所専門WEB制作事業
- サポート事業拠点
 - 東京、宮城、福岡、北九州、北海道



主たる事業「ほむさぽ」の紹介

元現場職員エンジニア、介護福祉士エンジニア、社会福祉士エンジニアが対応します

関東・札幌・宮城・福岡を中心に
全国250以上の介護・福祉事業者が活用中



国内唯一の介護・福祉・社会福祉士エンジニア支援サービス
0120-971-229 必ずはお電話

共に汗をかくサポーターとして
「ほむさぽ」は介護業務のIT活用相談や
導入後の支援まで、徹底的に支援します

今すぐ相談する

顧客満足度
98.6%
★★★★★
Best Quality

介護事業者のみなさま
このようなお悩みはありませんか？

- 業務にITを検討しているが、
何から始めたらいいかわからない
- 事務作業が全業務を
圧迫している
- あまり予算を気にせずに
WEBサイトをリニューアルしたい
- 介護ソフトのトラブル対応を
代行してほしい
- ネットワークやPCの
異変がすぐ起きておらず、
いざという時心配
- 購入機種の管理も行き
もらったが、適正価格
なのかわからない

「ITを活用したいが良く分からない」
「ITをもっと活用したい」
「導入したもののうまく活用できていない」
という声にお応えする為、作ったサービスです。

<主たるサービス>

IT活用助言、ITヘルプデスク、ネットワーク構築支援、
WEB制作、IT化支援全般（効率化/コスト適正化）

ホームページ：

<https://homesapo.com>

または「ほむさぽ」で検索



創業から10年以上、
日々、介護・福祉事業者からのIT活用
にまつわる相談を受けています

この一年間コロナ対策の相談も増えており
本日はその経験を踏まえ、お話させていただきます

ICT活用をする事で可能な コロナ対策とは

3つの密を避けましょう！

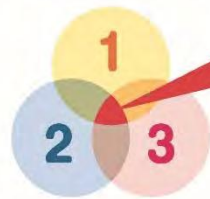
①換気の悪い
密閉空間

②多数が集まる
密集場所

③間近で会話や
発声をする
密接場面



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。
日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。



3つの条件がそろう場所が
クラスター(集団)発生の
リスクが高い！

※3つの条件のほか、共同で使う物品には
消毒などを行ってください。



【前提】

コロナ禍で私たちが心がけている事

- 三密を避ける
(密集、密閉、密接)
- ソーシャルディスタンス確保
- 共同で使う物品には消毒を行う

出所：厚生労働省HP

感染経路

- 現在新型コロナウイルスは、飛沫感染と接触感染によって感染する。
- つまり、この2点をICTでリスク抑制出来るかという事。

新型コロナウイルスは^{ひまつ}飛沫感染と接触感染によりうつるといわれています。

飛沫感染	感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。
接触感染	感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。

ICT活用をする事で可能な コロナ対策とは

大前提

他産業との違いとして

- 対人援助サービスという特性上、利用者（入居者）との接触は避けられない。
- 対策としては、主に**職員同士の接触を回避**していく事が中心となる。

ICT活用をする事で可能な
コロナ対策とは

訪問系サービスで出来る事

訪問系サービスでの対策

訪問系サービスに関わる職員は、入所系サービスの職員と比較すると、職員元々同士の接触頻度は低く、利用者を除き人と人との接触頻度は低い。

【従来】 訪問介護サービス実施記録、シフト表等帳票提出業務

【対コロナ】 事業所立ち寄り頻度を避ける



極力避ける

訪問系サービスでの対策

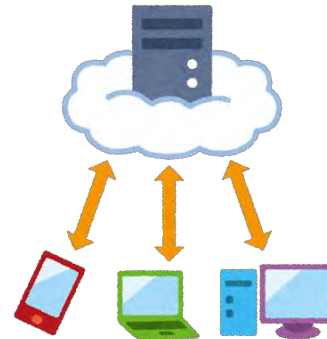
職員間コミュニケーション

1. 紙媒体による情報伝達方法をチェンジ

対策① 障がい福祉用記録ソフトの活用

対策② ビジネスSNSの活用

対策③ オンラインミーティングツールの活用



各対策[活用方法]について

対策① 障がい福祉用記録ソフトの活用

記録は訪問先等で行い、事業所立ち寄り頻度を下げる。

- ・訪問記録自体は準リアルタイムで報告。
- ・用紙原本の提出が必要な場合も月次で行う。

対策② ビジネスSNSの活用

事業所立ち寄りを避ける為、職員間のコミュニケーションは、ビジネスSNS上で極力行う。

- ・電話やメールでは煩雑になりがちなやり取りを、利用者毎やグループ分けする事で整理。
- ・文字だけではなく、画像や動画を活用したコミュニケーションも可能である為、より正確な情報共有を実現。
- ・訪問記録用紙を撮影し投稿する事で、紙の提出を待たずしてサービス提供責任者等との即時報告を実現可能。

各対策[活用方法]について

対策③ オンラインミーティングツールの活用

- ・法人内のミーティングや法人外とのミーティングは極力、オンラインミーティングを活用し、会議自体の頻度を減らす。
- ・ビジネスSNSには、機能としてオンラインミーティングツールが含まれるものもある。

※オンラインミーティングツールについて詳細は後述します。

ICT活用をする事で可能な コロナ対策とは

入所系・通所系サービスで出来る事

入所系・通所系サービスでの対策

訪問系サービスと比較し、職員間の接触頻度も高い。

【従来】職員同士が集合し、対面コミュニケーション

【対コロナ】集合せず、非対面コミュニケーション



極力避ける

入所系・通所系サービスでの対策

1. 申し送りなどの口頭による情報伝達方法をチェンジ

対策① インカムの活用

対策② IoTツールの活用

対策③ オンラインミーティングツールの活用

2. 文字による情報伝達方法をチェンジ

対策④ 障がい福祉用記録ソフトの活用

対策⑤ ビジネスSNSの活用

3. その他

対策⑥ オンラインミーティングツールによる面会

各対策[活用方法]について

対策① インカムの活用

- ・ 職員間のコミュニケーションの一部を非対面でのコミュニケーションとし、申し送りやミーティング等に掛かる時間を短縮する。

対策② IoTツール[見守りシステム]の活用

- ・ 見守りシステムの導入を行い、訪室頻度を減らす。
- ・ 動画や映像記録が可能な場合、職員間や外部との説明に要する時間短縮にも。

対策③ オンラインミーティングツールの活用

- ・ 法人内のミーティングや法人外とのミーティングは極力、オンラインミーティングを活用し、会議自体の頻度を減らす。

各対策[活用方法]について

対策④ 障がい福祉用記録ソフトの活用

- ・紙媒体による記録を減らし、紙を媒体とした接触感染リスクを減らす。
データ化し、紙の所在（一箇所）に集まるリスクを減らす。

対策⑤ ビジネスSNSの活用

- ・職員間のコミュニケーションの一部をチャットを用い、非対面でのコミュニケーションとする事で、申し送りやミーティング等に掛かる時間を短縮する。

対策⑥ オンラインミーティングツールによる面会

- ・利用者のご家族等との面会はオンラインとし、感染リスクを抑える。

対策実行時のポイント

ICTツールの選び方、注意点について

ICTツールの選定 一貫して推し進める必要

企画

- ✓ 情報収集
- ✓ 業務分析
- ✓ 問題把握
- ✓ 課題抽出
- ✓ 対応策検討

導入準備

- ✓ インフラ整備
- ✓ デバイスの準備
- ✓ 運用ルール整備
- ✓ 新業務フロー確認
- ✓ ITリテラシー教育

導入

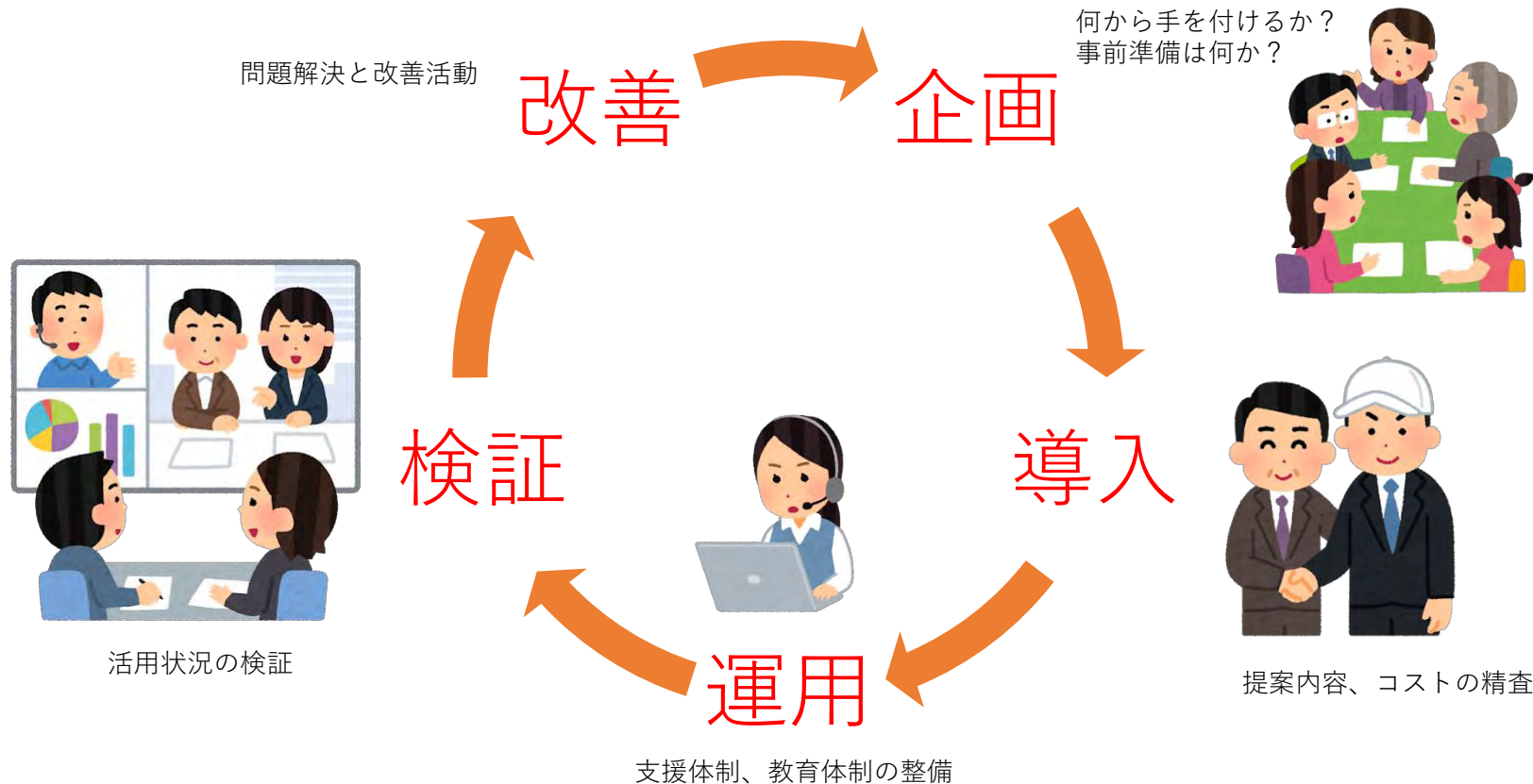
- ✓ 初期設定
- ✓ データ設計
- ✓ 製品購入

運用

- ✓ 導入後フォローアップ
- ✓ サポートフローの確立

IT活用の為の準備やアフターケアまで対象とし、万全な状態に！

システム活用サイクルを回し続ける ～導入して終わりではない～



ICTツールの選定方法

- ICT導入プロジェクトの進め方

基本は前述の通り。

介護分野が中心ですが、厚生労働省老健局より「**介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン**」が公開されており、本内容にてICT導入に関するノウハウを習得する事が可能。

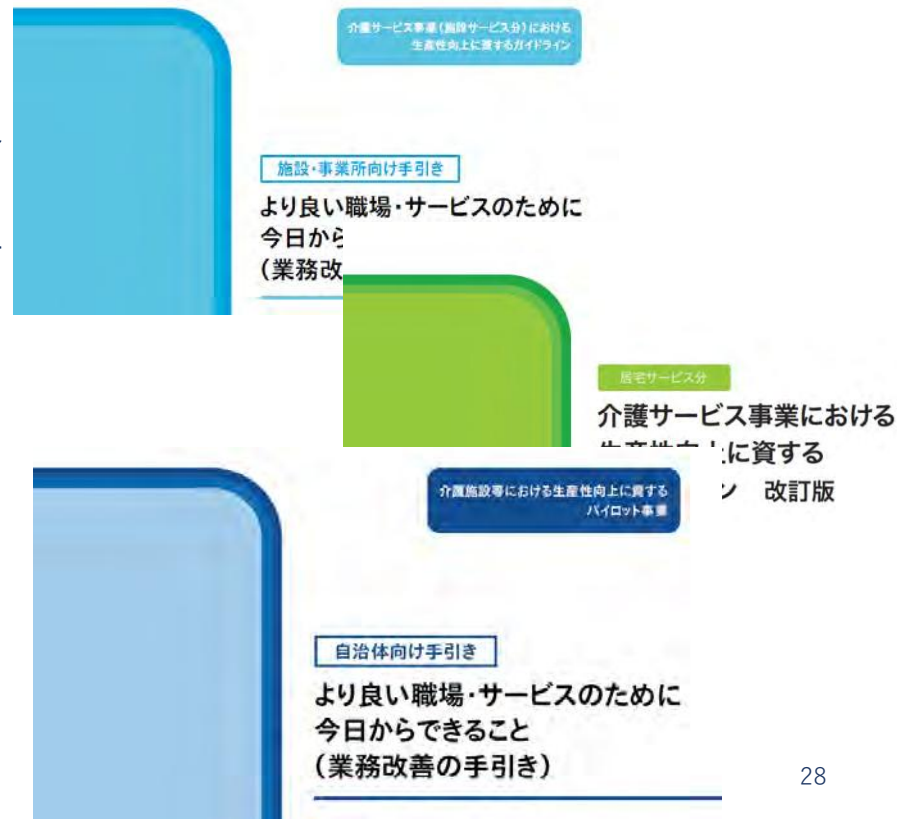
- 助成金・補助金の活用

「新型コロナウイルスの感染拡大の防止等に加え、障害福祉分野におけるICTの活用により障害福祉サービス事業所等における生産性向上を推進するため」として、ICT活用に関する補助が進んでいる。

例) 令和2年度「障害福祉分野のICT導入モデル事業」

厚生労働省(生産性向上に資するガイドライン)

- 目的
業務改善に向けたノウハウの普及
- 狙い
業務改善の取組経験のない事業所でも取り組みやすくする道案内のツール
- 考え方や具体的な事例、ツールの紹介がされており実践的な内容となっている。
- ダウンロードURL
<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei.html>



オンラインミーティングツールの活用 [面会、会議]

この一年で活用が進みましたね

- ・オンライン面会
- ・オンライン会議

弊社マニュアル(10000PV、3000DL) / 月

オンライン面会の取り組み事例

都道府県
各 指定都市 介護保険担当部(局) 御中
中核市

事務連絡
令和2年5月15日

厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室
高齢者支援課
振興課
老人保健課

高齢者施設等におけるオンラインでの面会の実施について



・共有スペースの一面等で実施
・職員(マスク着用)が利用者につき添い



LINE(ライン)のビデオ通話を利用した、
オンライン「ビデオ面会」をスタート。
出典:社会福祉法人 高津百寿会 特別養
護老人ホーム「おだかの郷」JHP



・家族(マスク着用)が施設の1階ロビー
(共有スペース)の一面で実施
・他の利用者や職員と距離を置いて、会
話内容が聞こえてしまわないように配慮

テレビ電話やアプリの「Zoom」(ズ
ーム)を使い、自宅や1階ロビーから面
会を開始。
出典:社会福祉法人友興会 特別養
護老人ホーム「グレイスホーム」JHP



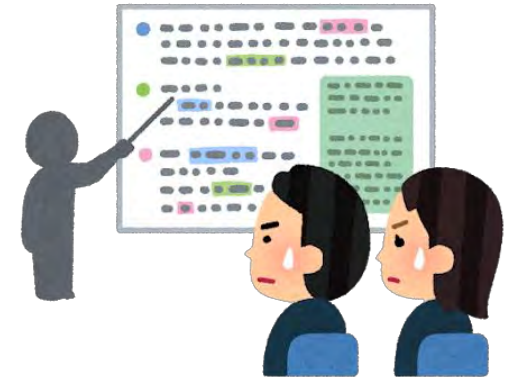
・共有スペースの一面(上の写真)又は宿
室(下の事例)で実施
・他の利用者と距離を置いて、会話内容
が聞こえてしまわないように配慮
・職員(マスク着用)が利用者につき添い

アプリの「Skype(スカイプ)」を使った
テレビ電話を活用。
出典:社会福祉法人梓友会 特別養
護老人ホーム「エクシリア南伊豆」JHP

活用が進んだことで見えてきた課題

WEB会議サービス等を活用してみても 見えてきた課題と対策

- 通信環境が不安定で困った（ホスト側、クライアント側双方）
高速通信環境の整備とデバイス整備
- 通信費の負担は？
通信費の負担ルール制定
- 職員によっては使いこなせないのだが・・・
マニュアルの整備
- 使用機器の準備は？
WEBカメラ、スピーカーマイク、ヘッドセットの整備
- 会議ホスト側の操作方法（投票機能等、高度な機能の知識）が不明
サービス元WEBサイト等を参照の上、事前調査
- セキュリティは大丈夫？
暗号化、データセンターロケーション等の確認（メジャーなサービスは大丈夫）
映り込みリスクに対して⇒バーチャル背景の使用
会話漏洩リスクに対して⇒周囲に職員がいない環境での使用
- WEB会議を活用可能な業務範囲は？
機密情報、機微情報の取り扱いルールや法令順守（以下によりアセスメントやモニタリングも認めている）
※「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る障害者（児）への相談支援の実施等について」
（令和2年2月25日付厚生労働省障害保健福祉部障害福祉課事務連絡）



オンラインミーティングツールの
使用方法が分からない方向けに・・・

- 対象ツールがZoomに限定されますが、オンライン面会・WEB
会議用マニュアルをそれぞれ以下リンクにて無償公開しております。
- ビーブリッド社製Zoom活用マニュアル（登録等不要・完全無償）

<https://www.bibrid.co.jp/manual.html>

QRコード



その他に必要な感染対策

ウィルスの残存期間

現時点で判明している新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の残存期間としては、エアロゾルでは 3 時間まで、**プラスチックやステンレスの表面では 72 時間**まで、というものがある。銅の表面では 4 時間以降、**段ボールの表面では 24 時間**以降は生存が確認されなかった。

（中略）

クルーズ船における環境調査では、まくら、机、**電話受話器、TV リモコン**、椅子の取手、トイレ周辺環境から頻回に SARS-CoV-2 の遺伝子が検出された。

記録用紙・情報機器の運用

紙からの感染リスク

- データは**極力電子化**し、ウィルスが24時間残存するという事を念頭に記録用紙であっても24時間は他者が触れないルールを策定。

情報機器の運用

- インカムなど情報機器は極力**個人専用**に。
- 機器を共有をする場合は、**使用者制限**をし使用者の数を絞り込みこむと共に、パソコンのキーボードやスマートフォン・タブレット等は、**使用前に手指消毒を徹底**し、機器の**定期的な消毒作業**も行う事。
凹凸があり清掃がし辛いキーボードについては、防水キーボードやキーボードカバーを活用する等の工夫も可能。

タブレットからの感染例も報告有

まとめ

- 密、接触を避ける為にICT活用は一部有効
- コロナ対策向けのICTも他のICTと同様、丁寧な運用が必須
- コロナ対策向けのICTは、補助金等もあり導入のハードルは下がっているが、導入前後の課題も多いことを認識し、導入前にきちんと計画を立てる事

ご清聴ありがとうございました